

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 3月 2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172000945		
法人名	有限会社Human-Effort		
事業所名	グループホーム 自由の樹		
所在地	小樽市最上1丁目36番4号 (電話) 0134-33-0330		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年2月25日	評価確定日	平成22年4月1日

【情報提供票より】 (平成22年 2月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 1月 10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 13人, 非常勤 3人,	常勤換算15.0人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	水光熱費27,000円 暖房費(11～3月)7,000円
敷金	(有) (35,000円) ・ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( ) 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要 (2月 25日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	10名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.3歳	最低	67歳	最高	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三ツ山病院、朝里病院、おきつ歯科、野口整形外科、おたる港南クリニック
---------	------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム自由の樹の運営者は、サービスを追求した個別ケアの実現を目指して当事業所を開設し、法人グループ内3棟目であり、福祉に熱意を持って事業拡大され、4棟目も開設を予定されています。事業所は、自然に恵まれた環境に位置し、裏山を一望することが出来、四季折々の景観を楽しむことができます。職員は、理念に掲げた「安心したその人らしい生活」の支援を目指し、詳細な情報分析による介護計画を基に、利用者それぞれのニーズに対応し、サービスの向上に取り組まれています。開設して4年が経過し、地域に開かれた事業所運営にも努めており、今後も期待される事業所です。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題とされた、災害対策の一時避難場所の確保と非常備蓄品の確保は、町内会の協力を得て、改善に取り組まれています。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者・計画作成担当者が中心となり、全職員に評価の意義を説明し、毎日のカンファレンスで1項目ずつ職員との意見交換をしながら、意見を集約し自己評価を作成しています。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2ヵ月毎に開催しています。事業所の活動状況や今後の予定、感染症対策、災害対策、外部評価結果を中心に報告をし、意見や感想を伺い、サービスの向上に繋げています。通常の構成委員に加え、面会に来られた家族も参加して行われています。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議や家族来訪時、電話での報告時に、積極的に意見や要望を伺っています。玄関に意見箱を設置し、苦情相談窓口の案内ポスターを貼り、重要事項説明書に内部外部の相談窓口を明記しています。管理者や職員は、様々な機会を利用して、話しやすい雰囲気作りを努めていますが、それでも、家族としては言い出し難いということを認識して、様々な工夫により、家族からの意見要望を十分に引き出す取り組みを期待します。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 理念にも掲げているように、職員は「挨拶」を大切に心がけ、玄関前での日光浴や外出時に、近所や地域の方との日常的な交流に努めています。高校の職業体験や福祉専門学生の見学・体験学習・保育園児との交流・ホーム行事へのお誘い等、交流を深めています。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所開設時に、全職員で事業所独自の理念についての話し合いを深め、5項目の理念を作成しています。その中に、「挨拶が出来る地域交流」を掲げ、地域との関係強化に努めています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所理念は、廊下と事務室に掲示し、ネーム裏面にも貼付して、常に意識・確認をしています。理念に基づいた介護の実践が出来るかを話し合い、特に利用者の状況変化時には職員間での確認・共有を図っています。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	理念にも掲げているように、職員は「挨拶」を大切に心がけ、玄関前での日光浴や外出時に、近所や地域の方との日常的な交流に努めています。高校の職業体験や福祉専門学生の見学・体験学習、保育園児との交流、ホーム行事へのお誘い等、交流を深めています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・計画作成担当者が中心となり、全職員に評価の意義を説明し、毎日のカンファレンスで1項目ずつ職員との意見交換をしながら、意見を集約し自己評価を作成しています。評価結果は、話し合いを通して改善に取り組んでいます。		

小樽市 グループホーム 自由の樹

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヵ月毎に開催しています。事業所の活動状況や今後の予定、感染症対策、災害対策、外部評価結果を中心に報告をし、意見や感想を伺いサービスの向上に繋げています。通常の構成委員に加え、面会に来られた家族等も参加して行われています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、あらゆる疑問点や相談事項などを積極的に伺い、電話や面会、事業所に来てもらう等、日常的に連携を図りながらサービス向上に取り組んでいます。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「事業所便り」を発行し、金銭管理の明細書と共に郵送しています。事業所便りには、利用者の暮らしぶりや行事の写真を満載し、個別欄に利用者の日常生活や健康状態、認知症状、予測される事などを担当職員が詳細に報告しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族来訪時、電話での報告時に、積極的に意見や要望を伺っています。玄関には意見箱を設置し、苦情相談窓口の案内ポスターを貼り、重要事項説明書にも内部外部の相談窓口を明記し、家族に説明をしています。	○	管理者や職員は、様々な機会を利用して、話やすい雰囲気作りに努め、意見や要望を伺っていますが、それでも、家族としては言い出し難いということを認識して、様々な工夫により、家族からの意見要望を充分に引き出す取り組みを期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の職員異動は、3月に事業所4棟目を開設予定である為、若干の異動はありますが、引継ぎ期間を2週間～1ヶ月設け十分に準備して実施されています。法人内合同行事や事業所間・ユニット間での交流で、利用者や職員は馴染みの関係を築き、異動による精神的負担を最小限に抑える配慮がされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修を毎月実施し、職員に今必要な事や今日的課題をテーマとして資料を作成し充実した内容で学んでいます。外部研修も職員の習熟度に応じて参加を促し、ホーム内研修で報告をしています。新人職員の状況によっては、事業所の新人研修の他に、法人内合同の新人研修も実施しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、グループホーム協議会の会合や研修会に出席し、同業者との情報交換や相談などで交流を重ね、サービス向上を目指しています。職員は、法人内のグループホーム見学や合同研修、又は、個人的なネットワークで他事業所との情報交換や課題についての話し合いをしています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族からの入居照会後は、必ず自宅や病院などの事前訪問を実施し、家族・本人にはホーム見学を何度でもしていただいています。入居に至るまでの間、連絡を取り合いながら、不安を軽減できるよう話を十分に聴き、信頼関係を築くよう努めています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の話を傾聴することを心がけ、人生の大先輩として、敬意を持って接することを心がけています。昔の職業や経験で得た知識・家庭円満の秘訣・結婚相手の選び方等、利用者から多岐に亘り教を学びながら、喜怒哀楽を共にし支え合い生活を共にしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の情報は、センター方式とMDS方式を併用してあらゆる側面から詳細に収集し、6ヵ月毎に情報の見直しをしています。その情報を詳細に分析して、利用者の思いや意向、及び、利用者の全体像の把握に取り組まれています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者の情報分析した全体像から課題やケアの方向性を見出し、全職員で検討を重ね、目標や具体的ケアを設定し介護計画を作成しています。サービス担当者会議では、本人・家族・担当医師の出席、又は診療情報提供書を参考に医療的側面や家族・本人の意向を踏まえて、課題の検討に取り組まれています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は、介護計画の実施状況を、利用者の日常生活場面毎の職員の対応やその結果を詳細に記録し、評価に活かすよう工夫をしています。又、連絡ノートに利用者に関する気づきや職員意見を記載して、職員間で情報を共有しながら実践し、定期の介護計画見直しに反映しています。介護計画は、本人・家族に説明をして、同意書をいただいています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居時の引越し・病院受診の送迎・外泊の送迎や外出支援など、本人や家族の希望により、柔軟に支援をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、本人・家族にかかりつけ医の希望を確認して、そのように支援しています。24時間対応の協力医療機関による定期往診や看護師による週3回の健康チェック、入院時の状況把握など、それぞれの医療機関と連絡を取りながら、医療の継続支援をしています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に、「重度化した場合の指針」を基に、事業所として出来ること出来ないことを説明し、同意書をいただいています。重度化した場合は、都度、意向を確認し、本人・家族・担当医師で今後の対応を話し合い、職員を含めた関係者で方針を共有しています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者を人生の先輩として、尊敬の念を基本とした言葉かけや態度で接し、失礼のないよう心がけています。入居者への呼び名は、入居時に本人と家族に確認し、堅苦しくならないよう配慮しています。個人情報同意書を交わし個人情報の管理をしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「安心したその人らしい生活」を理念に掲げ、利用者それぞれのペースで生活できるよう支援しています。早朝から活動する方や夜型で起床・朝食がずれ込む利用者等、それぞれに対応し、入居前と同じように暮らせるように努めています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、生活の中の楽しみになっており、男性職員が多い為、食事の調理・味付け・盛り付けなど、利用者に教えてもらいながら、一緒に調理しています。また時には、出張サービスのにぎりやラーメンなども楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が希望する時に入浴出来るよう支援しています。朝風呂を好む方や一番風呂を希望する方、同姓介助を希望する方、それぞれに対応しています。週2～3回を目安に支援していますが、利用が少ない利用者には、工夫を凝らし支援しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カレンダー設定・畑仕事・野菜の収穫・鳥の餌やり・鳥小屋の修理・洗濯物干し等の役割を持った生活支援をしています。利用者の誕生日には、その方が希望する楽しみ事を個別支援しています。季節の行事には職員が扮装して、場を盛り上げています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	裏庭の畑の水撒きや草取り等の畑の手入れ、鳥の餌やりと一緒に支援しています。裏庭や玄関前ベンチでの日光浴では、裏庭の景色を眺めたり、道行く人との交流を楽しめるよう支援しています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の玄関ドアは施錠していますが、日中は開錠しています。利用者は1階2階のユニット間を自由に行き来しており、外出時は、職員による声かけや見守り支援をしています。		

小樽市 グループホーム 自由の樹

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下、年2回、日中と夜間想定で避難訓練を実施しています。町内会長や近所の方にも見学してもらいながら、感想を伺っています。町内会の協力を得て、近所に一時避難場所も確保し、災害備蓄品の準備にも取り組まれました。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	事業所の食事は、食材納入業者を利用し、カロリー・塩分・たんぱく質のバランスが摂れた献立の食材が届けられています。毎食の摂取量や飲水量は、記録に残し、職員間で共有し必要量を確保出来るよう支援しています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広くゆったりと設計され、窓が大きく、裏山の景色が一望でき、開放感が感じられます。廊下の奥には、喫煙場所を設け、空気清浄機を設置して配慮しています。居間の壁面を吸湿素材にして、湿度の確保に留意しています。訪問時は段飾りのお雛様を飾り、季節感や行事を大切に支援しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた馴染みの家具や生活用品、家族からのプレゼント、仏壇などを持ち込み、お供えをして、安心して過ごせる空間作りを工夫しています。		

※  は、重点項目。